

答 今後、駅周辺の市有地や民間の低・未利用地の活用も含め、市民から多くの意見を伺いながら、総合的かつ一体的に整備方針を検討していく。

●総合公園ブル跡地利用

問 総合公園ブル跡地については、老朽化等の理由により、平成24年度をもって廃止されたが、跡地利用については、市民要望の多いサッカー場を建設してもらいたいと考えるがどうか。

また、スポーツ施設を考えていない場合、子ども達が遊べる遊園地や動物園などの施設を建設することについてはどうか。

答 市では、本年4月に庁内において行田市総合公園施設再整備検討委員会を設置し、検討を始めたところで、10月末までに跡地利用の方針を決定していく予定である。

また、議員提案の2件については、貴重な意見とし、今後、市民の皆さんの意見も取り入れながら、魅力ある公園となるよう検討を重ねていきたい。

○その他の主な質問
○小型家電リサイクル制度

教育環境

**小中学校の
統廃合及び
特色ある学習**

柿沼貴志
(新政策研究会)

問 市内小中学校の児童・生徒数減少による統廃合について、平成20年に行田市公立学校通学区区域等審議会から答申を受けた後の経過と結果について、中長期を見据えた大局的な計画はあるのか。

また、統廃合後の地域防災拠点としての対策や周知は。

答 答申を受け平成20年に策定した「行田市公立学校再編成計画」に基づき取り組みを行っている。本計画は、複式学級の解消を主眼に置いたものであるが、今後においては少子化がさらに進むと予想される中で、長期を見据えて、将来的な施設の更新等も視野に入れ、単なる統廃合ではなく抜本的な再編成を検討する必要があると考えている。

また、学校は災害発生時には地域防災拠点として様々な役割を担っており、市や市民の大切な財産であることから、

しつかりとした情報提供を行い、地域住民の方から要望や意見を伺い、理解を得ながら計画を進めていく。

問 行田市の特色ある教育の強化及び行田市の人材を生かした外部講師や特別授業等の強化を望むがどうか。

答 「ふるさと学」や「寺子屋事業」を中心に、地域の皆様のご協力を頂き、地域にある文化財や教育資源を生かしながら、行田市に誇りの持てる特色ある教育実践を推進していく。

問 徳育・修身教育の強化を望むがどうか。

答 教育の狙いは「人格の完成」にある。道徳教育を心の教育の中心に据え、全教育活動の中で徳育の充実・推進をしていく。

問 大人になる自覚を深め、個人の自立や目標を立てる「立志式」を提案するがどうか。

答 現在、学校では、キャリア教育を中心に個人の自立を促す取り組みを行っている。このような考えのもと「立志式」についても研究していく。

○その他の主な質問
○武道教育必修化



学校教育

**「修身教育」
「小中連携教育」
「全国学力テスト」**

松本安夫
(黎明21)

問 子ども達を取り巻く環境も大きく変容しており、親の価値観は多様化し、地域コミュニティも残念ながら脆弱になつてきている。

以前は、地域の人に注意され、親に怒鳴られながらもしつけを身につけてきたが、今は身につけていない子どもが多くなる。自己中心的で努力を嫌う傾向の子ども達である。

現状を踏まえ、「人間の資質の向上」の意味合いが強い「修身教育」について、教育委員会の考えは。

答 しつけなどを養う道徳教育を通して、人間としての資質の向上は十分に果たせることから、今後も、人間としての生き方を身につけ、実践できる児童・生徒の育成のため、さらなる充実を図っていく。

問 家庭教育が人間形成の根幹をなすことは言うまでもなく、その責任と役割を明確にする必要が重要であるが、現在は年々家庭教育力の低下が見られる。教育委員会の対応はどのようなものか。

答 保護者会や学校だより等を通じ、家庭での取り組みを伝えること。また、PTA活動や地域公民館と共催事業で家庭教育学級を開催するなど、今後も、各取り組みの充実を図り、家庭教育力の向上に努めていきたい。

問 小中一貫教育・連携教育の議論はどこまで深まったか。

答 今年度は、全中学校区ごとに連携校を区分けした中で、連携推進会議等の開催や、学区独自に指導内容を協議するなど、より具体的な取り組みが行われている。

問 全国学力・学習状況調査が4年ぶりに全員参加で行わ